

名 称	阿久根市ボランティア体験活動支援センター
所在地	〒899-1628 鹿児島県阿久根市塩鶴町二丁目2番地
連絡先	TEL : 0996-72-3800 FAX : 0996-72-3803

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 阿久根市 25,235人

本市は、鹿児島県北西部に位置し、約40キロメートルの美しい海岸線を有しており農業と漁業が盛んな町である。

昭和27年4月1日より市制を施行して以来50年以上にわたり産業を営んでいるが、人口は市制施行をピークに減少を続けており、逆に高齢化率は平成14年度に30%を超え、現在では32%を超えた超高齢化した町でもある。

近隣の市町村はいわゆる「平成の大合併」で市町村合併が行われたが、本市においては今のところ合併は行われておらず、また高齢化率も高い地域でもある故に市の財政事情は厳しい状況である。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「福祉体験学習（ワークキャンプ）」

福祉体験学習「ワークキャンプ」とは、市内の小・中・高校に通う児童・生徒を対象に福祉施設や児童クラブ、ホームヘルパー等の体験をしていただき、福祉への理解や関心、体験を通して「思いやりの心」を育て、また次世代の福祉人材の育成にもつながる活動である。

昭和62年より福祉事業として開始し、毎年市内の高校生を対象に実施してきたが、平成17年度より「さらに低学年の子供たちにも福祉への関心を持ってもらおう」として小・中学生も対象として行った。

具体的な内容としては、夏休みを目前にした7月上旬に市内の学校に対して、夏休み期間中に福祉の体験学習の参加を呼びかけ、「興味がある」または「参加したい」という児童・生徒に対して「ワークキャンプとは？」と題して事前学習を行った。

それぞれ参加したい福祉施設や児童クラブ、ホームヘルパーを自分達で選択（複数可）し、参加について保護者からの了解を得て夏休みの期間中に体験していただくことになる。

コーディネートの実際

市内の高校に通う生徒を対象に、昭和62年度から実施しているワークキャンプであるが今年度で30回目の開催をすることができた。

まず、阿久根市のボランティアに関する相談窓口として、阿久根市社会福祉協議会内にボランティア活動支援センターを設置しており、年間を通して児童・生徒のボランティアに関する質問や先生方の福祉学習の依頼にお答えしている。

この夏休み期間中に行うワークキャンプは、実に30年連続で行い、私共センターでは年間計画に取り込むほどのものであり、とても円滑に活動が行われていると思われる。

夏休み前への生徒呼びかけの前に、福祉施設や学校との連絡調整、親への承諾書類などを準備し、受け入れる側と受ける側のコーディネートにとっても時間や期間を要する。

小中学生はまずセンターへ集合していただき、当日伺う施設について午前中かけて事前学習を行い、午後より実際に施設やヘルパーの訪問先に出向き体験していただくものとした。



小学生への事前学習

小・中学生は、一日中施設にいると緊張が切れ遊びになりかねない為、このような配慮をも心がけ、行き帰り共にセンターより送迎を行い、事故が起こらないように対処した。

また、学童クラブでの活動では、中学生からの参加とし、人員配置や活動時間などにも気をつけた。

昔のように、地域において年齢を超えて遊ぶ機会の少ない今の子供にとっては貴重な体験となり、どこへ行くにも手を引いて独占する児童や、何とか気を引こうとする児童がいたり中学生も一日中走り回り、参加した生徒にとっても貴重な体験となったようである。

福祉施設での活動は、今後ますます高齢化する社会を担わなければならない、また核家族化の中で高齢者等と生活する機会の少ない現代の児童・生徒に対し、福祉施設で高齢者や障害者と触れ合う事により、こうした方々と共に生きることへの理解と関心を高めることを目的とした。



中学生のヘルパー体験



利用者の方への食事介助

障害児の通園施設では、高校の生徒さんが障害児と楽しく水遊びをしており事前に職員より声のかけ方や目くばりなどを学習していた生徒が子ども達一人一人に真剣かつ優しい目で接している姿が印象的であった。

子どもたちも普段触れ合う事の少ない高校生のお兄さんお姉さんとの交流に大喜び、手を引きながらあちこちで楽しい笑い声が聞こえていた。

～ここで、参加した生徒さんの声をお届けします～

僕が福祉体験に行きたかった理由は、目が不自由な人や知的障害者にどうやって接すればよいか知りたいからです。ぼくの、お兄ちゃんも耳や目が不自由だからです。

小6 男子

普段わたし達が疲れた時に座ったり立ったりしゃべったり、無意識にしている行動がしたくても出来ない、そんな人たちの生活はとでもわたしには想像できないものでした。

その人も障害者になるまでは想像していなかったと思います。だから、もしそういう人のボランティアや仕事につくことになったら、その人の気持ちになって考えてあげたいです。

中3 女子

私が気付いた事は、目の不自由な人が障害を感じさせない明るさ・動作などでした。

今回の福祉施設に来なかったら、きっと考えなかった事だと思います。そして、体験しなかったら、私の心の中で勝手に作られた障害者のイメージは消える事がなかったと思います。またこの施設に絶対に来たいと思います。

高3 女子



身体整容の様子

福祉体験学習については、ケガもなく無事、終了することができた。

後にいただいた生徒さん方の感想文を見ると、ありがたい言葉が嬉しかった気持ちや、積極的に自分から声かけしていき努力していく姿が見受けられ、前向きな内容の感想文が多いことに気付かされる。

参加の動機は様々であるが、親・兄弟が福祉施設に勤めている方、障害をもつ方が家族にいる方、将来自分自身が福祉に関わる仕事に就きたいと考えているなどの思いを持った生徒さんも中にはいることに気付かされ、高い目的を持ってこのワークキャンプに参加している児童・生徒の意識に対し、この福祉体験学習が「意義あるものである」ということを感じ本市においてボランティア活動支援センターとしての役割を果たしていきたいと思う。

執筆者職・氏名：阿久根市社会福祉協議会 阿久根市ボランティア活動支援センター
ボランティアコーディネーター 東新 秀子